

森の紙芝居部門 小学生の部 入選（審査委員長賞）

「パロの大冒険」 作：悠馬&涼馬

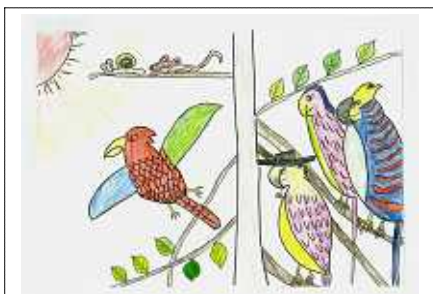


パロは、美しい森に住む一羽のオウムです。おとうさん、おかあさん、セロという名のお兄さんの4人家族で平和に暮らしていました。ある日、セロは、旅に出ると言って、森の外へと飛び立っていきました。



一ヶ月後セロは、森へと戻ってきました。びっくりしたことにあの美しい羽根は色あせ表情は、陰しく何かにおびえている様子です。

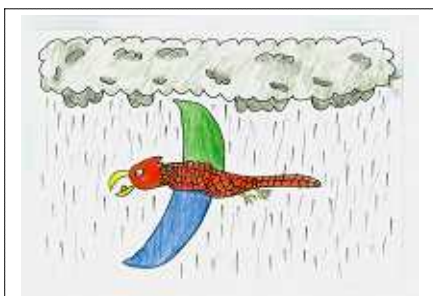
パロ 「兄ちゃん、森の外には何があるの？ぼくしりたいんだ。教えてよ、兄ちゃん。」  
 セロ 「おまえは、何も知らない方がいい。外の世界には行くな。この森にいれば安心だよ。」  
 パロ独り言 「あの勇かな兄ちゃんを怖がらせるなんて森の外には、怪物がいるに違いない。ぼくも森の外に行って怪物をやっつけてやる。」



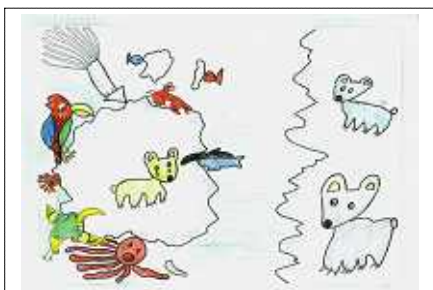
パロは、みんなを説得して森の外へと旅立ちました。  
 パロ 「みんな心配しないで。ぼくは、大丈夫だよ。悪い怪物をやっつけて必ずこの森へ帰ってくるからね。」  
 セロ 「パロ！気を付けるんだよ。」  
 父母 「いつでももどっておいで。」  
 パロは、高く高く飛び立ち力の限り遠くを目指しました。



森からはるかかなれた遠い町の空から見下ろすと、パロの目には、たくさんの汚れた煙を出す怪物が見えました。アスファルトの上、騒音の中、忙しそうに動き回る車や人たち。遠くの工場からもけむりがもくもくと出ているのが見えます。  
 パロ 「ゲホッゲホッ苦しいよー。」



そこへまっ黒な雨雲がやってきました。いきなり「ザーッ」とすごい雨です。  
 パロ 「雨だ！体をきれいに洗い流してもらえぞ。」  
 ところが、この雨は、酸性雨という汚れた雨だったので。  
 パロ 「うわ！体がヒリヒリする！雨に化けた怪物だー！もうこんな所いやだー！」  
 パロは逃げるように北へ北へとむかいました。何日も飛び回ってる内にとうとう北極へとたどりついてしまいました。



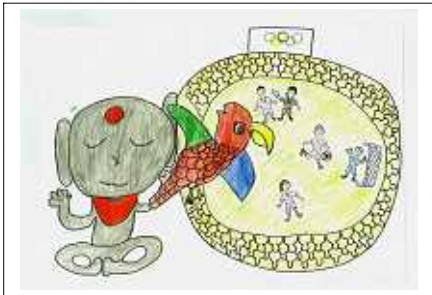
すると、パロの目の前で氷がどんどん溶けている様子が見えました。氷に乗っていた子熊のコロンは、家族とはなればなれになって泣いています。  
 パロ 「大変だ！」  
 パロは、北極に住む鳥や魚に応援を頼んで家族のいる場所へとコロンを運びました。  
 コロン 「ありがとう。オウムさん。」  
 パロ 「ふーよかった。でもここには氷を溶かす怪物がいるんだな。森の外はどうしてこんなに悪い怪物がいっぱいいるのだろう。」



パロは、今度は南へ南へとびたちました。ここは、赤道直下のとある島です。なんとこの島は、たてものの半分が海の中に沈んでいます。  
 パロ 「ひどい、ひどいよー。こんどは、町を海に沈める怪物だ！  
 何でこんなことをするんだー。」



パロは、泣きながらとびたち日本の静かな山道へととりつきました。そして、おじょうさんの頭で一休みしながら、森の外でのできごとを一つ一つ思いかえしました。  
 パロ 「兄ちゃんの言うとおりだ。ぼくは怪物をやっつけるためにここに来たのに、ぼくにできることっていったい何なんだろう。」  
 とつぶやきました。すると、パロの頭の中に「森をまもりなさい。」という声がひびきました。  
 「その怪物を倒すのは、森のきれいな空気なのです。今、森はどんどんはかいされています。パロよ、森をまもるのです。」  
 とふたたびひびきわたりました。



パロは、その言葉を信じました。そして、世界の人々に、森を守ることの大切さをうたえるために、飛び立ちました。  
 パロ 「世界中の人々が集まる場所？それは、いったいどんなところだろう。」  
 あちこち飛び回っているうちにふと目についた場所。それは、オリンピック会場でした。世界中の人達が集まってにぎわっています。  
 パロ 「ここだ！」パロは、一目散に会場へと下り立ちました。



マイクを見つけるとパロは、得意な人間の言葉を話し出しました。  
 パロ 「みなさん、ぼくはパロといいます。聞いて下さい。このままでは、地球は、こわれてしまいます。森を守って下さい。汚い空気や雨も氷が溶けて、海に沈んでしまう国も森が救います。  
 ぼくを信じて下さい。」  
 この様子は、あっという間に全世界に広がりました。そして、世界中の人々の心に強く森を守ろうという気持ちが生まれました。演説するパロの横に聖火を持った男の人が寄ってきました。



男 「パロありがとう。君のおかげで地球は生まれ変わることができるよ。今、この聖火を持って、僕は世界中を走っていくよ。そして森を守ることを応援してくれる人へとバトンタッチしていく。この聖火が全世界をわたり終えるころ地球は、きっとよみがえっているよ。」  
 その言葉を聞いて、安心したパロは、喜んで、家族のいる森へと帰って行きました。



お父さん、お母さん、セロがうれしそうにパロをむかえてくれました。  
 父母 「おかえりなさい。パロ。」  
 セロ 「やったなパロ。お前の活躍は、みんな知っているよ。実は、お前のが心配で、後からそっとついて行ったんだ。すごいぞパロ。」  
 パロ 「ありがとう。兄ちゃん。ぼくのこと見守ってくれていたんだね。悪い怪物は、もうすぐいなくなるよ。これで、森の外も平和になるんだね。」  
 パロの活躍のおかげで、地球は本来の姿を取り戻しました。そして、人々の心に世界を救ったオウムがいたことは、いつまでも語り継がれました